

第3回東亜総研月例セミナー講演録

日 時：平成26年2月14日（金）13時30分から15時まで

場 所：東京都千代田区麹町4-1-1 麹町ダイヤモンドビル9階 株式会社レコフ会議室

講 師：ベトナム社会主義共和国特命全権大使 ドアン・スアン・フン閣下

テーマ：日越外交関係40年の成果と今後の展望

<講演録>

司会：まず開会にあたりまして、私共の代表理事会長の武部勤からごあいさつ申し上げます。

武部：皆さん、こんにちは。道の悪いところ大勢、今月の月例セミナーにご出席をいただきましたことに心からお礼を申し上げます。第1回目は12月のバーレーンのハリール・ハッサン大使のご講演をいただきました。そして1月は、フン大使の予定でありましたけれども、ご日程の都合で谷崎前駐ベトナム日本国大使にご登場いただきました。ロコミといえますか、この月例セミナーの中身の濃さに、今日も本当に各界のリーダーの方々がお集まりをいただいております、会場が狭くなってしまったというほどうれしい悲鳴でございます。

フン大使につきましては、皆さん方は既にご案内と思いますので、多くの時間をかけたご紹介等を省略したいと思います。ご案内の通り昨年は日越外交関係樹立40周年の記念すべき年でございました。フン大使は日本中を飛び歩いている方でございますが、とりわけ去年は忙しかったと思います。その中で安倍首相が就任早々、ベトナムに参りましたことにより、日越両国関係は最高潮になったといっても過言ではないと思います。そして12月15日ASEAN会議のときに、日越首脳会談が行われました。その席では、安全保障の問題、経済開発の問題、特に海上安全についてわが国政府が2隻の巡視船を援助するということを決めた他、日越大学構想について合意が得られたわけであります。

そして、いよいよ私どもの日越大学構想は、号砲が鳴って、これから勢いよくスタートすることになりました。その陰にフン大使が大変ご努力をくださいました。ちょうど大事なときに素晴らしい大使をわれわれ日本国はお迎えすることができたなど、私は本当にうれしく思っております。

なお、去年の40周年に引き続きまして3月16日の予定でありますけれども、ベトナム

国の元首であります、チュオン・タン・サン国家主席が国賓として来日されます。二階俊博日越友好議員連盟の会長さんらのご尽力で、国会演説も予定されております。これからますます日本とベトナムの関係は力強く前進していくものと思ひまして、私共東亜総研といたしましてもアジアと日本との架け橋といいますか、プラットホームとして各方面の皆さん方と力を合わせて努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

私のあいさつは以上にいたしまして、早速フン大使の講演をしたいと思っております。なお、予告ですけれども、3月の講師は、着任したばかりのユスロン駐日インドネシア大使に決定いたしました。インドネシアもアジアの大国であり、また、日本通であり、私の親友でもあります。次回のユスロン駐日インドネシア大使につきましても、乞うご期待と思ひます。以上で冒頭のごあいさつといたします。ありがとうございます。

司会：それでは、ドアン・スアン・フン閣下、お願いいたします。通訳はベトナム大使館のレ・フィー・ホアンさんをお願いします。よろしくお願いします。

大使：皆さん、こんにちは。残念ながら私はまだ日本語を話せないです。まず本日は、東亜総研で皆さまと一緒に話すことができまして、心より光栄に思っております。本日皆さまと一緒に日越の関係について話をしたいと思ひます。このテーマは本当に私自身が着任してから2年、いつも私の頭の中や心の中に存在しているテーマです。そして、どうすればこの関係をもっと強化できるのか、私自身いつも考えております。

話が始まる前にこの場を借りまして、武部勤先生にお礼の気持ちを表したいと考えております。私が着任してからこの2年ちょっとにわたって武部先生から本当に多大なるご支援、ご指導をいただきました。私の信任状の奉呈式が終わったところ、すぐ北海道まで訪問の招待を受けまして、武部先生のご家族ともお会いできました。大変有意義な北海道の訪問となりました。そして武部先生のご紹介で、たくさんの日本人の政治家や友人と友好関係を構築できました。それから両国の関係の発展のためにも、武部先生からご指導、ご協力をいただきました。本当に感謝いたします。

また、皆さまにもお礼の気持ちを申し上げたいと思ひます。このようにとても厳しい天気、寒くて雪も降っている状況にもかかわらず、大勢の方々にお越しいただきまして感謝いたします。こういったことはやはり、ベトナムと日本との関係にも皆さまは高い関心を持っている表れだというふうに考えております。この場を借りまして武部先生に、皆さま

とお会いするこのような貴重な機会を設けていただいたことを感謝申し上げたいと思います。そして寒い気候にもかかわらず大勢の皆さまにご参加いただいて感激いたします。このことは私の心が温かくなって、両国の親しい関係と信頼がもっと深くなっているということをよく実感しております。

皆さま、2014年の新年が始まりました。皆さまは新しい計画やたくさんの要望を考えているでしょう。私自身は今後の日越の未来を楽観する見方です。なぜかというと、両国の関係は流れに乗って強固になっており、近年強化する傾向をよく実感できました。毎日、両国民の心の中、両国の企業の擁護の中、そして国会において両国のリーダーの決心の中に、両国の発展のモーメントが表れていると感じております。2013年はベトナム・日本外交関係樹立40周年および、日越友好を記念すべき年で、盛大に記念を行うことができました。

40年といえば、ちょうどベトナムの中には発展と平和が持続できまして、そのような平和発展を遂げられるためにベトナム人は長年にわたり厳しい戦争がありました。そしてその間にも日本国はベトナムの友人として、いつもそばにいらっしやって多大なる支援をいただきました。ベトナムと日本がいつも積極的に協力の機会を生かして、両国の長期的な利益、また明るい未来に向けて努力してまいりました。70年代の争闘においてベトナムと日本の両国のリーダーと国民は、ベトナムが必ず戦争に勝てることを信じて、1973年9月21日まで戦争が終了していないときに、日本がベトナムと外交関係を樹立していただきました。

そして80年代に入って、ベトナムはアメリカから経済制裁を発動されました。日本政府はその経済制裁解除運動を積極的に行っていただきました。そしてベトナムの経済改革や経済開放に関していろいろなアドバイスをいただきました。その中で、亡くなられた渡辺元副総理はベトナムのハノイに数日にわたって滞在し、ベトナム政府と一緒にどうすればベトナムは経済改革できるのか、意見交換を行っていただきました。いろいろなアドバイスもいただきました。そしてベトナムへのODA供与についても言及していただきました。さらに当時たくさんの日系企業や日本人の専門家がベトナムに入って、投資やアドバイスをいただきました。そのとき、初めてベトナムが外貨を受けたのは日本人の海産物輸出からのものです。

90年代に入ったベトナムで私がよく覚えているのは、1994年2月3日。アメリカからベトナムへの経済制裁を撤廃していただいたことです。そのことはやはり日本からの運動、

ご支援があったからこそと考えて、感謝の気持ちがいっぱいです。そしてベトナムでの ODA のときから再び日本から供与していただきました。そのときから今現在までの 20 年間、ベトナムと日本との関係は、ますます深く良好に発展しています。経済、政治、社会、文化、教育のみならず政治、国防、軍までも広がっています。特に 2009 年から、当時ベトナムと日本は、戦略的パートナーシップ、そういう関係を構築していく合意がなされて、そのときから今まで以上に、一層強化・発展する段階になりました。ご承知の通り、特に 2013 年。両国の外交関係樹立 40 周年を記念すべき年で、両国の間に本当に新たな発展段階に入っているということをお互いに実感しています。

外交関係が樹立した 40 年前当時、現在このように両国の関係が非常に発展していることを誰も想像できなかっただろうと思っています。そのとき外交関係が樹立したといっても、まだ冷戦の影や疑う気持ちを持っている方もいらっしやったのではないかと思います。しかしながら、これまで 40 年にわたって両国の関係が非常に発達して今、信頼関係が高まっています。このような関係発展を示す数字について述べたいと思います。それは日本がベトナムに対して、最も重要な ODA 供与国です。この 20 年で日本から 220 億ドルの ODA 金額をいただきました。この数字は素晴らしくて、第 2 の供与国であるフランスに比べるとはるかに離れています。フランスからは 40 億ドルです。第 3 の供与国は韓国で 35 億ドルです。

FDI 直接投資面においても日本はベトナムの第 1 パートナーになっています。これまで累計で計算すると現行 2,227 案件が展開しているところです。総金額は 340 億ドルです。また、貿易面において両国の 2013 年の貿易金額は 252 億ドルに達成できました。2012 年と比較すると 2%増加しました。この 20 年間で両国の貿易金額は 13 倍に増えました。そして観光分野においてもよく発展しています。ベトナムへの日本人観光客は昨年度、60 万人に達成しました。私が強調したいと思いますのは、逆に日本に観光として来ているベトナム人も急増していることです。50%増えました。

もう 1 つ強調したいのは、日本へのベトナム留学生の数字が急増している状況です。このことは、やはり日本で留学したい、勉強したい、そういうことを思っているベトナムの青年が非常に増えていることを示しています。やはり両国の関係はよく発展しているし、今後の展望もあるので、さらにまだ発展すると彼らは考えていますので、日本に留学したいという理由の 1 つになっていると思います。数字に関しては、現在日本に留学しているベトナム学生は 1 万 3,000 人です。アメリカに留学しているベトナム学生は 1 万 6,000 人

です。ですからアメリカに比べるとまだ下なんですけれども、その1万3,000人の中に日本語を勉強する目的の学生が多いです。ですから、とてもいいことだと思います。

続きましては、両国の戦略的パートナーシップを表す協力分野について言及したいと思います。それは国防安全保障です。まず安全保障分野において、2013年ベトナムのチャン・ダイ・クアン公安大臣が公式に訪日しました。そして日本側からも国家安全保障委員会の担当、古屋大臣閣下もベトナムを訪問していただきました。両国がお互いに次官級の戦略的安全保障の対話も実現できました。その場でいろいろなシーンができて、特に全ての問題を言及して今後の解決についても意見交換ができました。また、国防分野においても2013年ベトナム側から総参謀長、副参謀長も訪日しまして、日本側からは小野寺防衛大臣にベトナムを訪問していただきました。本当に国防においても常時、往来が確立しているし、それから今後両国の国防の発展に向けて協力していく、そういう合意もなされました。

政治、そして国際フォーラム、国際会議において両国の関係は活発化しています。例えば国際会議、国際フォーラムにおいて、いつも両国のリーダーが出席した際に個別の面会も行われました。その場でたくさんの課題について、意見交換もできました。国際フォーラム会議において、本当に両国の協力関係が効果的に構築できたというふうに私は考えています。例として、日本側からベトナムへ、2008年から2009年任期の、国連安保理非常任理事国になったということを支持していただきました。そしてベトナムが2014年から2016年の任期、国連人権理事会のメンバーになることも支持していただきました。逆にベトナム側からも日本が国連安保理の理事国になることを公開的に支持しています。

私がそれを申し上げたのは、やはり両国の関係はあらゆる分野において緊密によく発展していることを強調したいからです。そして2013年、安倍総理大臣が就任後初めての外遊先としてベトナムを選んでくださいました。逆にベトナム側からもグエン・タン・ズン首相も2013年12月15日に東京で開催された「日・ASEANサミット（特別首脳会議）」に出席した際に、安倍総理大臣との面会を行いました。また、安倍総理大臣がベトナムを訪問したときに、両国の外交関係樹立40周年の記念するために「日越友好年の宣言をしましょう」と、ズン首相と共に宣言をしました。そしてズン首相が訪日したときに、安倍総理大臣と共にその日越友好年の期限終了の宣言をしました。1年間にお互いの両首相が往来できたことは、とても素晴らしいことです。そして6月だけでも両国の首相との間で2回電話会談も行われました。とても素晴らしかったです。

私自身、これまで32年間の外交官の経験を持っていますが、6カ月間で首相レベルの電話会談が2回も行われたことなど今まで一度もありませんでした。ですから、このことはベトナムと日本の新たな信頼や一層の発展段階に入っていることを示していると思います。

ご存じの通り、2013年には両国それぞれにたくさんの記念イベントが盛大に開催されました。以前はこれほど温かいたくさんのイベントが行われたことはなかったと、ベトナム国内でもよく話題に上がっていました。記念イベントは、多くは盛り上がっている雰囲気、で両国の国民の感情をよく表すものでした。私は時々ベトナムへ出張しています。その際に、たくさんのベトナムの地方のリーダーと面会します。そして、「駐日ベトナム大使はぜひ自らの地方に足を運んでみてください」と言われました。特に、これから日本と自らの地方との関係を促進していきたいとおっしゃいました。誰もがそういうふうにおっしゃったんです。地方のリーダーだけではなくて、ベトナム各省庁の方々も同じ気持ちでそのように言っています。

皆さまもご存じかと思いますが、2013年9月に東京で開催されたベトナムデーのイベント、その中のベトナムフェスティバルが盛大に開催されました。台風の影響も受けましたが、13万人もの来場者数を達成できました。その他たくさんの記念イベントも盛大に開催されました。例えば、ベトナム国立オーケストラの日本ツアーも盛大に行われました。そして、1つの地方ですけれども、愛知県でもベトナムフェスティバルが行われて3万人も来場していただきました。その理由をたくさん述べたいと思いますけれども、まとめとしましては、現在、両国の関係がとてもよく発展している段階に入っています。とても高い信頼、そして戦略的パートナーシップの精神の下で強化されていることを皆さまに強調したいと思います。

両国の関係は非常に発展していますけれども、今後、一層発展できるポテンシャルがまだ大きいことを皆さまに申し上げたいと思います。まだ、そのポテンシャルを生かし尽くしていないと思っています。例えば、貿易分野においてベトナムと日本の貿易関係は最近発展していますけれども、日本と外国との総貿易金額の中ではまだ2%しか占めていません。ベトナム人に人気のある、日本のとても良い製品でまだベトナムの中に入ってきていないものも結構あります。逆にベトナムからも、とても品質が良く値段が安いものが、日本人の消費者の手元にまだ届いていないものも結構たくさんあります。ですから、こういうことをぜひお互いによく考えて、どうすれば解決していけるのか一緒に考えたいと思い

ます。やはり、貿易関係は戦略的パートナーシップというレベルをまだ達成していないと強調したいと思います。

やはり、冷戦時代につくられた良くない条件などがまだ存在しています。ベトナムに対する良い条件をまだ与えていないこともあります。そして、直接投資。FDI 分野においても日本の対ベトナムFDIは第1位になっていますけれども、日本と他の国とのFDIの中で、ベトナムへのFDIはまだ1%しか占めていないです。タイと日本とのFDIはそれよりかなり大きいです。ですから、ぜひFDIにおいても、これからももっと強化していきたいと思っています。そのことは、ベトナムのみならず、日本企業の利益、そして日本経済、今復興している時期にとっても役に立てると考えています。グラフを見ると分かるように、JETROの2011年の統計数字によると、2006年から2010年までの日本の対ベトナムFDIは、日本の対タイFDIの21%を占めています。対中国のFDIの8%だけです。そして、日本の対アジアの総FDI金額の2.6%しか占めていない状況です。

続きまして、労働力においても述べたいと思います。ご存じの通り、日本は今、高齢化社会に直面しています。一方、ベトナムは人口の黄金期に入っています。そのような補完性がありますけれども、まだよく生かすことができていない状況です。

繰り返しますけれども、両国の関係は現在よく発展している段階に入っています。しかしながら、もっと発展できるポテンシャルが大きいということを言いたいと考えています。ですから、これからもお互いに引き続き信頼関係や友人という気持ちに基づいて、あらゆる分野において両国の関係を一層新たな段階に入れるように一緒に取り組んでいきたいと思っています。このことは当然ながら、両国の利益、そして地域、世界の平和安定のためになると考えています。

個人的には、日越関係は一番高いレベルに引き上げるべきだと考えています。そういうレベルまで関係を構築できると、両国の企業や国民にこのようなメッセージを伝えることができると思います。そのメッセージとは、両国の協力関係を長期的に進めていくことにより、安心して長期的にお互いのビジネスや関係を続けられるということです。両国の企業と民間の方々にそのように考えてもらいたいと思っております。

東亜総研の研究者の皆さま、そしてご出席の皆さま。もし私の意見に同感していただけるならば、これからも引き続き一緒に協力していきたいと思っています。現在、アジア太平洋という地域は世界の発展中心部そして経済発展の動機になっていると思います。ですから、お互いにその機会を生かしていきましょう。そして、皆さまと共に、世界地域の安定平和、

両国の国民の利益のために一層、日本とベトナム両国の関係を強化していきたいと思います。

ベトナムと日本の関係を新たなハイレベル、一番高いレベルに引き上げられるようにするのは、偶然になるということではなく両国の政府が決心することです。その決心に影響を与えることができる研究者の皆さまのご意見、アドバイスなどが本当に必要で、大変、大切だと考えています。そのことに関してはやはり、政治の信頼関係を高める必要があると思います。ですから、これからもわれわれの両国のリーダーが頻繁にお互いに往來することも大切だと思います。その中で、もし日本の天皇陛下にベトナムを訪問していただくと、とても光榮です。ベトナムにとっては、大変有意義なご訪問になります。両国の関係発展に、大変、貢献できるものになると考えています。そして、地域と国際フォーラムなどにおいて、引き続き両国の協力関係をもっと強化し、その機会を生かして両国の利益または利点となるように取り組んでいくことも必要だと思います。

もう1つは、経済貿易面においても、その他、科学技術、教育そして観光などの分野においても、もっとお互いに良い条件を与える必要があると思っています。もっと強化すべきだと思います。日本は、ベトナムにとって本当にとっても重要な戦略的パートナーです。最も重要なパートナーといえるでしょう。ベトナム人は日本人、日本のことに感服、尊敬してたくさん学びたいことがあります。私たちのおじいさんの時代から、日本から学んでベトナムの貢献、発展のために生かしていく、そういう気持ちがありました。日本からのご支援を受けましてベトナム経済が発展できると、逆に日本が世界の最も重要な役割を果たせることにつながると思います。ベトナムもすごく微力ながら貢献できると確信しております。

経済、貿易、科学技術、教育などの分野においてぜひ新たな見方、新たな基盤において強化していきたいと思います。例えば、貿易分野においてぜひ良い条件を与えていただいて、現在、存在している課題を解決していただきたいと思います。逆にベトナムのほうにも日本から FDI がスムーズに入れるように、オープン的な政策も行うべきだとベトナム政府が考えています。そうして人材分野においてもお互いに協力して、良い条件を与えるべきだと思います。あと科学技術においては、日本からもっと高度科学技術を移転してもらいたいと思います。その他、もっと強調したいのは農業分野です。日本は農業先進国であるとよく理解しています。ぜひ、日本の農業の発展の経験、そして技術を共有していただいてベトナムの農業と一緒に発展させていこうと考えています。

お時間の制限もあると思いますので、まとめて最後にしたいと思います。近いうちにベトナムの国家主席が国賓として訪日することになっています。このことは両国の関係におけるとても大きいイベントになると思います。そして、この訪問によって両国の戦略的パートナー関係が実質的に効果的に発展することにつながると思います。そして両国に利益をもたらすと考えています。世界地域の平和安定にも両国は今後ともよく貢献できると確信しておりますことを、皆さまに伝えたいと思います。これで私の話を終わりたいと思います。ご清聴どうもありがとうございました。

(会場 拍手)

それでは、ベトナムと日本の関係を一層強化できるように、皆さまから何かご質問、ご意見があればこれからおっしゃっていただきたいと思います。皆さまからのご質問を歓迎いたします。

司会：大使からはそういうことですので、せっかくの機会ですからご質問をどうぞ。

会場 1：明快なご説明をありがとうございました。その図に越日文化共通とあります。ベトナムと日本の文化の共通性というご指摘がありますが、そこのところもう少し詳しくご説明いただきたいと思います。

大使：ベトナムと日本との間に共通点がたくさんあることを強調したいです。まず、文化の共通点について述べたいと思います。文化の非常に面白い共通点もたくさん存在しています。一般の生活の中でも、日本人とベトナム人の考え方、感情、心がとても似ていると思います。もう1つは、仏教文化もお互いに存在しています。そしてベトナムも日本も海の国です。海産物をたくさん食べています。料理もとても似ています。ベトナム国内に皆さまが入ると分かるように、今、たくさんの日本料理レストランができています。ベトナム人はよく日本料理を食べています。ベトナムも日本も相似的に位置している国ですので、自然災害がたくさん起こっています。日本人が災害に対して強い意志で乗り越える姿を、ベトナム人は非常に尊敬しています。

もう1つ、共通点を述べたいと思います。日本国は第2次世界大戦に直面してその後、再起から出発しましたが世界第2位の経済大国になりました。ベトナムはこのことを心より尊敬して、日本人のことを学びたいと思っています。皆さまもご存じの通りベトナムも厳しい戦争がありました。むしろ石器時代にベトナムが戻っていくのではないかという疑問案がたくさん出ていました。その困難をベトナム人が乗り越えられるためにどうすればいいのかを、まずその日本人の経験や精神を学びベトナム経済を大国にまで発展させてい

こうと、そういうことにもつながっていました。もう1つ共通点は、日本もベトナムもとても大きな近隣国と一緒に存在していて、それでどうすればうまくいけるのかそういう取り組み方もよく考えていると思います。

もう1つ面白い共通点があります。専門家の発言ですが、日本人とベトナム人は産まれたばかりの赤ちゃんのときに蒙古斑(もうこはん)があります。その蒙古斑は世界の中で、ベトナム人と日本人だけがあります。ですから皆さま、ぜひ家へ帰ってご確認ください。

(会場 笑)

大使：このことはやはり両国は、ただの友人ではなく兄弟の関係が存在しているのではないかと思います。まだたくさん共通点がありますけれども。

司会：ご質問ありませんか。

会場2：今日はありがとうございます。私は料理研究家の藤野真紀子と申します。素晴らしいベトナムのお料理が大好きです。日本では家庭でお母さんが食事を作ることがだんだん少なくなり、次世代の子どもたちの食の問題が大変大きく取り上げられています。ベトナムではジャンクフードやファストフードがどのくらいまん延して、子どもたちに何らかの問題が生じているのか。そういう次世代の子どもたちの教育に関してどのようにお考えですか。

大使：ご質問ありがとうございます。ベトナムにおいては経済環境もありますので、まだ子どもに対してお父さんやお母さんがよく料理を作っている状況です。それと共に、外国からの習慣やビジネスが入ってきますが、ファストフードもあまり入っていません。そういう傾向もありますが、まだみんな両親が料理を作っています。例えばベトナム大使館の中でも、ほとんどの奥さんは旦那さんと子どもの料理を作っています。ただ何かイベントごとがあるときは外食をすることがあります。

司会：藤野さん、いかがですか。

会場2：ありがとうございました。

司会：他に、どうぞ。

会場3：今日は本当にありがとうございました。ベトナムと日本が経済的にも文化的にも交流を深めていくことは本当に大切だということをよく理解できたと思います。きっと国家主席がおいでになるということで、その関係が一層深まることはとても大事だと思いました。大使に1つ質問です。ベトナムに投資をしておられる会社やその他の方々から伺いますと、ベトナムの方々はとても誠実で勉強や研究に熱心で、粘り強いということを開か

せていただいております。大使はベトナムの方々、どの点で誇らしく素晴らしいと感じていらっしゃるか、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

大使：ご質問ありがとうございます。総じてベトナムの労働者のことですが、ちょうど昨日、古河電工の社長さんが、ベトナム大使館にお越しくださり、面会しました。古河電工の社長さんのお話によると、今ベトナムにある子会社には労働者が1万5,000人います。ほとんどの人が勤勉で一生懸命やっているし勉強も早いとおっしゃっていただき、私たちは誇りに思い、とてもうれしく思っています。ベトナム人は日本人と同じく、困難を乗り越えて発展していくということです、そのことをよく考えて発展性の価値があると考えています。一生懸命していくべきだと認識しています。ですから、企業から適切な給料をもらおうと、その企業に対して長期的に一生懸命仕事をするという気持ちがあります。

この話を聞き、気持ちを伝えていますが、今日本では労働者が足りません。ベトナムは労働者が豊かです。ですからそのことをぜひお互いに補完関係をつくりたいということです。そういう考えで、これは日越大学関係のベトナム政府が大歓迎していることです。やはり武部先生のおっしゃった通り、高度で知識の高い人材をつくるという案件。そういう人材が引っ越しできると、将来ベトナムも協力案件に参加できる人材を派遣できると考えています。ですから、この人材育成分野は優先的に発展させるべきだと思います。

しかし、はっきり申し上げるとベトナムの労働者にはまだ弱点もいくつかあります。例えば堅持する気持ちがまだ足りないのではないかとということです。「何があってもチャレンジしてやっていこう」ということを私たちは勧めたいと思います。そして日本人と同じく規則を守ること大事だと思っています。そういうことを、これからもベトナムの労働者に伝えたいと思います。

もう1つは日本語です。彼らにぜひ日本語をよく勉強してほしいと考えています。また日本語だけではなく日本の文化や技術をそれぞれがよく勉強すると、将来ベトナムと日本には何千もの協力案件がありますので、彼らがよく勉強できるとそれらの案件に役に立てると思います。そして育成された人材を、日本の労働者が足りない所に派遣できれば何よりも効果があると思います。このような考えで、ベトナムでは人材育成の大学や教育センターまた専門学校や専門センターなどを、日本人からのご協力を受けてつくることを、優先的に政策を行っているところです。

司会：どうもありがとうございました。非常に期待しております。

(会場 拍手)

司会：では会長のほうから、締めのごあいさつをお願いします。

武部：皆さん、長い時間ご清聴ありがとうございました。スアン・フン先生からベトナム人の誇りについてご質問いただきました。私は長い間ベトナムとの関係を持っておりますが、感じるのは日本人は約束したことを守る、契約関連がしっかりしている。ベトナムの人も決まりを守り約束を誠実に履行する。そういうことがベトナム人と日本人の共通項であり、正しく生きる人の道というのでしょうか。そういう道というものについてベトナムの国家も国民も、非常にわが国と共通していると感じました。その中で黄金の人口構造とありましたけれども、これからは何より人材教育ということ。それも単なる単純労働ではなくて、日本と同じようにハイレベルな人材をこれから世に出していく。ベトナムのみならずアジアの国々、世界に対して羽ばたいていってもらえるような人材を育てる。

そしてそれは先ほど私が申し上げましたように、これからアジアの時代というのは、アジアの魂みたいなものが大事ではないかと思います。これからわれわれの持つ文化社会で生きていかななくてはならない。日本は八百万（やおろず）の神などといいますが。ベトナムをはじめアジアの国々とわが国に対してそういったところを期待していると思います。それは和の精神、共和の精神。1人だけが勝つのではない、共に助け合い共に励まし合い、共に力を合わせて問題を解決する。これは日本の美風だと思いますが、ベトナムやアジアの国々と共通する心だろうと思います。やがて隣国も、われわれやベトナムとあるいはインドネシア等はそういった国々と共和の精神でアジアの将来を展望し努力していくならば、アジア全体、やがては欧米に対しても東洋の良さを理解してもらえるような、全地球的な地球一家といっている、そういう世界を展望できるのではないかと思われわれは努力している所存でございます。長くなりましたが今日のセミナーの締めにあたりまして一言申し添えまして、このセミナーを閉じたいと思います。

(了)